

1 調査名称：秦野市総合都市交通体系調査業務

2 調査主体：秦野市

3 調査圏域：秦野市

4 調査期間：平成25年度～平成27年度

5 調査概要：

これまでの都市交通の計画において、人口の増加と交通容量の不足を背景として、量的な拡大をねらいとした都市交通施設の計画を中心として検討されてきた。しかし、近年、人口減少、都市への人口集中の沈静化、公共投資余力の減退などを背景に、政策目標に対して効率的かつ重点的な計画を提案することが求められてきている。また、行政の取り組み全般に対して成果（アウトカム）と効率性、わかりやすさを重視した行政マネジメントを実施することが求められてきており、都市交通においても行政マネジメントの考え方に合致した計画策定、施策実施等が求められる。

そこで、パーソントリップ調査をベースとした総合都市交通体系調査の実施により、交通実態調査に基づく定量的な分析、都市構想・土地利用計画と一体となった交通計画の検討、各種交通手段分担を考慮し、施設計画に加えTDM計画も一体となった交通計画検討を行う必要がある。

今年度は、総合都市交通体系の策定に向けて、将来都市像や総合都市交通体系の目標、施策の検討を進め、将来交通需要の推計に基づく定量的な分析を行い、交通計画を検討するための課題抽出を目的として実施した。

I 調査概要

1 調査名称：平成27年度秦野市総合都市交通体系調査業務委託

2 報告書目次

序章 業務の目的等

- 序－1 業務目的
- 序－2 業務項目
- 序－3 業務フロー
- 序－4 業務内容

第1章 将来交通需要分析に基づく都市交通施策の評価と施策検討

- 1－1 交通施策の検討
- 1－2 交通需要予測の実施
- 1－3 望ましい交通施策の検討と評価

第2章 「はだの交通計画（改定版）」の素案の検討

- 2－1 交通施策の実施による効果・目標等
- 2－2 将来の望ましい交通計画の姿
- 2－3 交通計画の実現に向けて

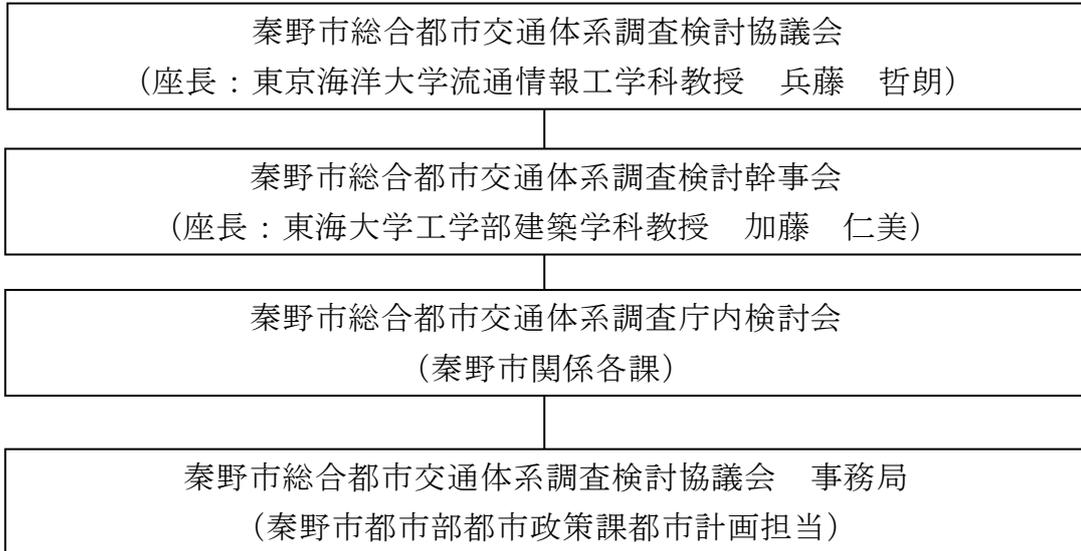
第3章 パブリックコメントの実施支援と「はだの交通計画（案）」の策定

- 3－1 パブリックコメントの実施支援

第4章 「はだの交通計画（改定版）」の策定

3 調査体制

平成26年度から立ち上げた協議会及び幹事会について、平成27年度も引き続き開催し、交通計画改定について検討した。



4 委員会名簿等：

(1) 秦野市総合都市交通体系調査検討協議会 (平成28年2月8日時点)

	所属	役職等	氏名
座長	東京海洋大学流通情報工学科	教授	兵藤 哲朗
委員	東海大学工学部建築学科	教授	加藤 仁美
委員	関東地方整備局横浜国道事務所	副所長	佐藤 重孝
委員	関東運輸局神奈川運輸支局	支局長	遠藤 恭弘
委員	神奈川県警察本部交通部交通規制課	都市整備課長	三富弥宗和
委員	神奈川県警察秦野警察署	署長	横山 俊二
委員	神奈川県県土整備局道路部道路企画課	道路企画課長	相原 久彦
委員	神奈川県県土整備局都市部交通企画課	交通企画課長	寶珠山政和
委員	神奈川県県土整備局平塚土木事務所	工務部長	久保 暁敏
委員	神奈川県県土整備局平塚土木事務所	計画建築部長	高橋 徹
委員	秦野市自治会連合会	会長	高橋 榮一
委員	秦野商工会議所	専務理事	栗原 政男
委員	秦野市政策部	部長	栗原 豊
委員	秦野市くらし安心部	危機管理対策 専任参事	栗原 敏明

委員	秦野市福祉部	部長	高橋 昌和
委員	秦野市環境産業部	部長	北村 徹
委員	秦野市建設部	部長	古谷 榮一

(2) 秦野市総合都市交通体系調査検討幹事会 (平成28年2月8日時点)

	所属	役職等	氏名
座長	東海大学工学部建築学科	教授	加藤 仁美
委員	東洋大学国際地域学部国際地域学科	教授	岡村 俊典
委員	国土交通省関東地方整備局 横浜国道事務所計画課	課長	本村信一郎
委員	国土交通省関東運輸局神奈川運輸支局	首席運輸 企画専門官	三上 弘良
委員	神奈川県秦野警察署交通課	課長	阿部 正彦
委員	神奈川県道路部道路企画課	グループ リーダー	宮島 直人
委員	神奈川県道路部道路企画課 道路グループ	グループ リーダー	秋田 賢一
委員	神奈川県都市部交通企画課 交通企画グループ	グループ リーダー	神永 裕一
委員	神奈川県平塚土木事務所工務部 道路都市課	課長	前田 清知
委員	神奈川県平塚土木事務所計画建築部 まちづくり推進課	課長	竹山 幸夫
委員	小田急電鉄株式会社 交通企画部 (輸送計画担当)	課長	大津 俊成
委員	神奈川中央交通株式会社運輸計画部	部長	三木 健明
委員	秦野市タクシー協議会 株式会社愛鶴	取締役 副社長	篠原 俊正
委員	秦野市政策部企画課	参事	串田 浩
委員	秦野市くらし安心部くらし安全課	参事	笹生 一郎
委員	秦野市福祉部障害福祉課	参事	瓜本 公生
委員	秦野市環境産業部環境保全課	参事	橋本 晋一
委員	秦野市環境産業部産業政策課	課長	石原 学
委員	秦野市建設部	参事	渡邊 正
委員	秦野市建設部道路管理課	参事	小澤 豊
委員	秦野市建設部国県事業推進課	参事	佐藤 龍司

(3) 秦野市総合都市交通体系調査庁内検討会（平成28年2月8日時点）

	所属	役職等	氏名
委員	秦野市政策部企画課	参事	串田 浩
委員	秦野市くらし安心部くらし安全課	参事	笹生 一郎
委員	秦野市くらし安心部防災課	課長	高田 保
委員	秦野市福祉部障害福祉課	参事	瓜本 公生
委員	秦野市福祉部高齢介護課	参事	山本 隆浩
委員	秦野市環境産業部環境保全課	参事	橋本 晋一
委員	秦野市環境産業部産業政策課	課長	石原 学
委員	秦野市環境産業部観光課	課長	杉田 佳一
委員	秦野市建設部道路管理課	参事	小澤 豊
委員	秦野市建設部道路整備課	参事	内田 匡
委員	秦野市建設部国県事業推進課	参事	佐藤 龍司
委員	秦野市建設部国県事業推進課	課長代理	佐藤 伸一
委員	秦野市都市部公共交通推進課	参事	保坂富士雄

(4) 事務局（平成28年2月8日時点）

	所属	役職等	氏名
	秦野市都市部	部長	河野 雄介
	秦野市都市部公共交通推進課	参事	保坂富士雄
	秦野市都市部都市政策課	課長	小谷 幹夫
	秦野市都市部都市政策課	課長代理	佐藤 靖浩
	秦野市都市部公共交通推進課	課長代理	北村 正臣
	秦野市都市部公共交通推進課	主査	吉門 靖徳
	秦野市都市部公共交通推進課	主任主事	三嶽 恵介
	秦野市都市部都市政策課	主任技師	大槻 英治
	秦野市都市部都市政策課	技師補	田所 篤
	秦野市都市部都市政策課	主事補	松井 愛

II 調査成果

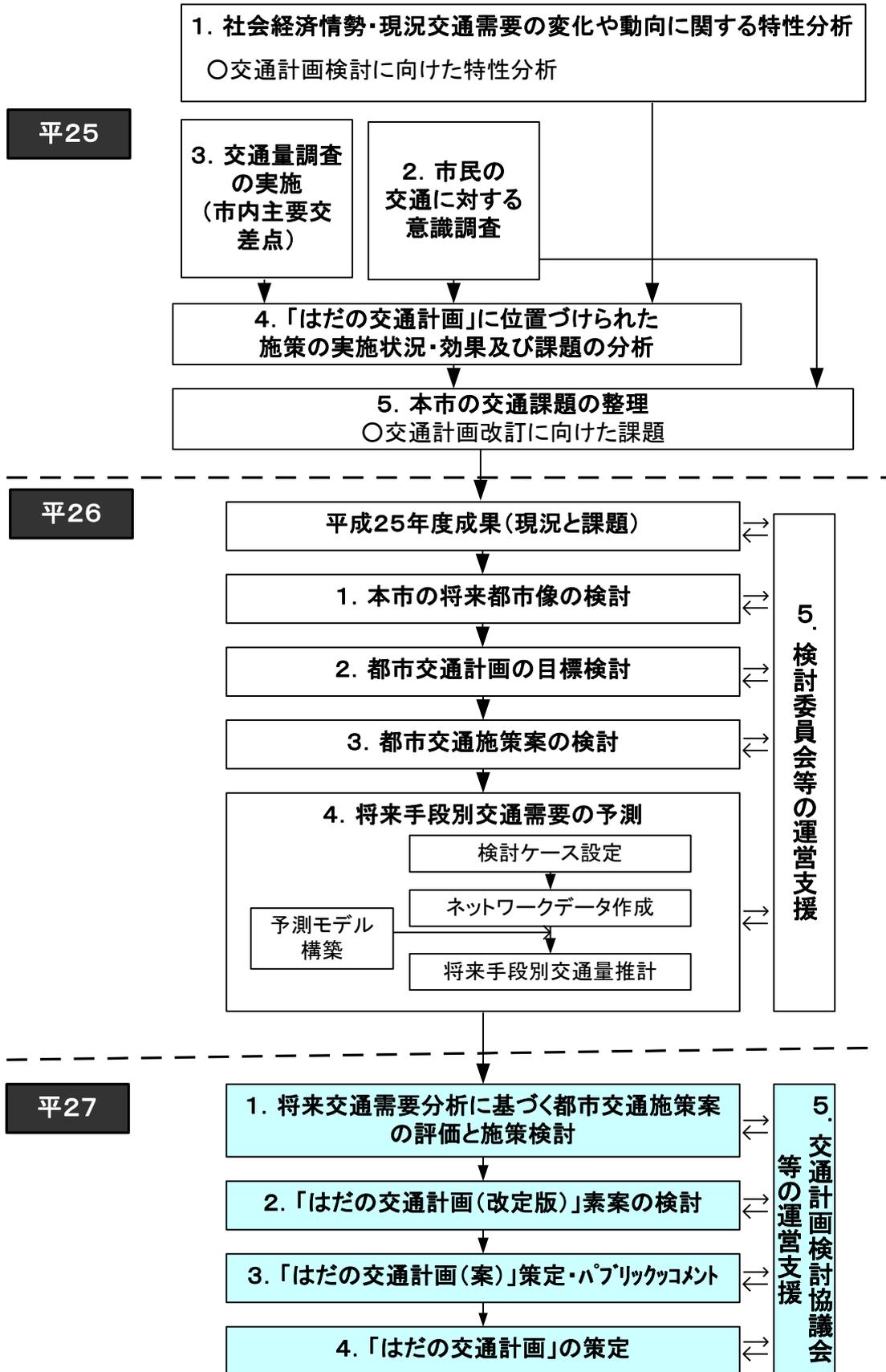
1 調査目的

本業務は、これまでの都市交通の計画において、人口の増加と交通容量の不足を背景として、量的な拡大をねらいとした都市交通施設の計画を中心として検討されてきた。しかし、近年、人口減少、都市への人口集中の沈静化、公共投資余力の減退などを背景に、政策目標に対して効率的かつ重点的な計画を提案することが求められてきている。また、行政の取り組み全般に対して成果（アウトカム）と効率性、わかりやすさを重視した行政マネジメントを実施することが求められてきており、都市交通においても行政マネジメントの考え方に合致した計画策定、施策実施等が求められる。

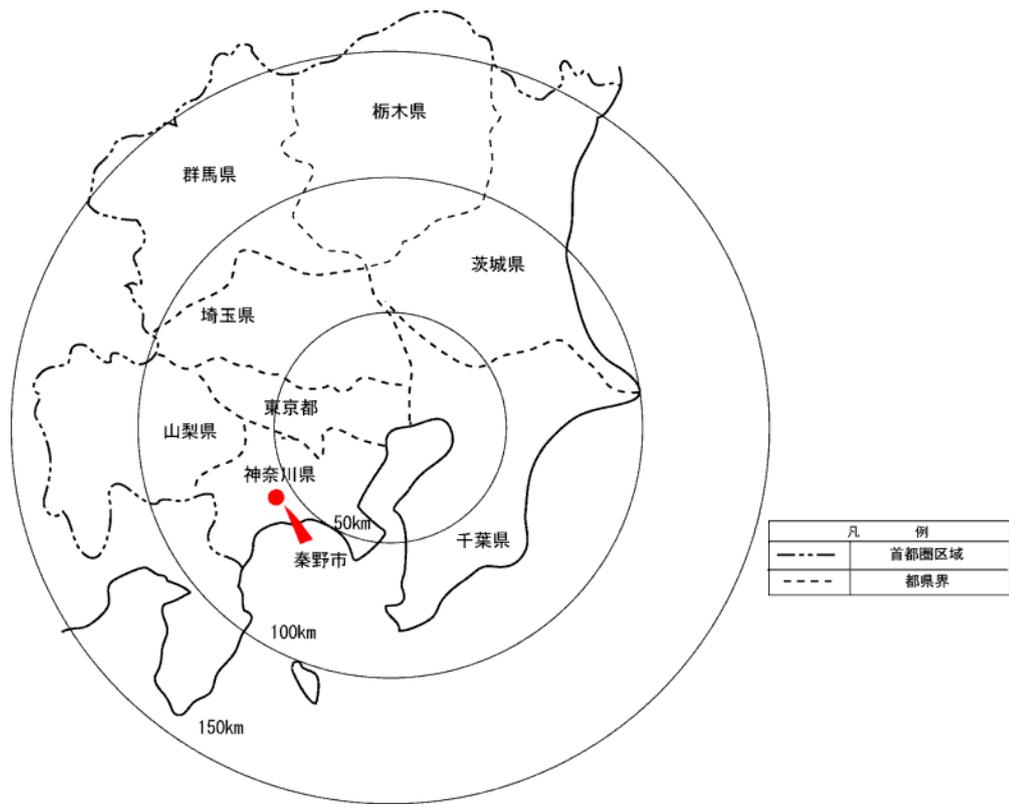
そこで、パーソントリップ調査をベースとした総合都市交通体系調査の実施により、交通実態調査に基づく定量的な分析、都市構想・土地利用計画と一体となった交通計画の検討、各種交通手段分担を考慮し、施設計画に加えTDM計画も一体となった交通計画検討を行う必要がある。

今年度は、平成26年度までの検討結果に基づき、総合都市交通体系の策定に向けて、将来交通需要分析に基づく都市交通施策案の評価と施策検討を行い、パブリックコメントを実施した上で、「はだの交通計画」を改定する。

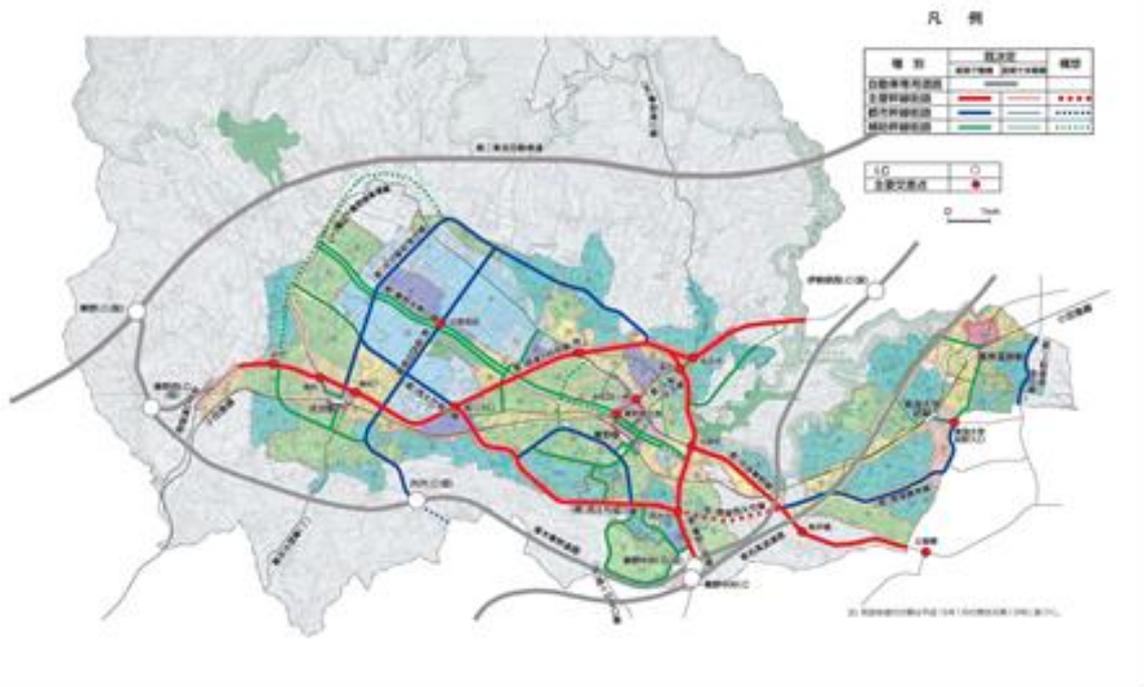
2 調査フロー



3 調査圏域図



(参考) 「はだの交通計画 (平成15年3月策定)」における長期交通計画



4 調査成果

第1章 将来交通需要分析に基づく都市交通施策の評価と施策検討

1-1 交通施策の検討

平成26年度までに検討した各交通体系に基づく施策について、施策導出に至った現況交通課題に関する統計資料の更新等を行いながら、必要性について再検証し、評価対象となる施策を再度抽出した。

(1) 交通計画の改定の背景となる上位計画・関連計画

交通計画は、下図に示すとおり、市の総合計画や都市マスタープラン、国や県の都市・交通計画、その他関連計画を受けて、秦野市における交通施策の方向性として取りまとめるものである。よって、平成26年度の検討以降、変更された上位計画や関連計画の情報を収集するとともに、交通計画の改定の背景として、計画内容について整理した。

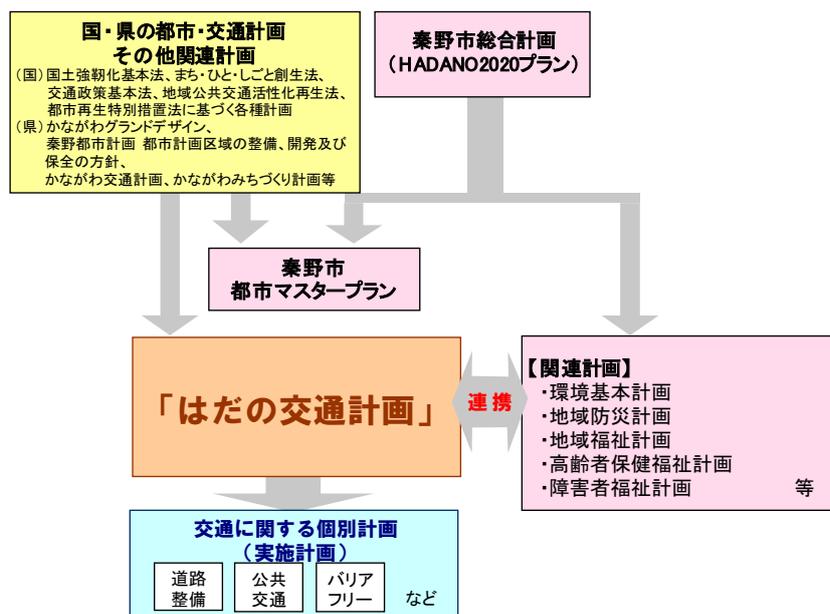


図 本計画の位置付け

(2) 社会情勢の現況と変化

(3) 交通環境の現況と変化

最新の統計資料の公表等を受け、交通を取り巻く現況の変化として、社会情勢及び交通環境に関して平成26年度に整理した変化と動向に関する資料を対象に、データの更新等を行った。

(4) 交通を取り巻く課題

ア 人口減少への対応

人口増加から人口減少への転換を受け、人口減少社会における将来都市像の実現に向けて、快適な移動環境の整備と都市の活力の維持に資する交通体系の充実が必要となっている。

イ 超高齢社会への対応

高齢化の進展を踏まえ、高齢者や交通弱者の生活交通の確保や移動における安全性の確保、向上に向けた交通体系の充実が必要となっている。

ウ 産業活性化への対応

高速道路網の整備を踏まえ、本市の産業立地ポテンシャルの高まりに対応し、産業立地の促進に資する交通環境整備を進めるとともに、今後予測される新規需要に対応し、安全な地域環境を進めていくための整備が必要となっている。

エ 観光振興への対応

本市及び隣接市町や周辺地域の豊富な観光資源を活かし、観光周遊が可能となるネットワーク整備やソフト施策と連携した観光周遊ルートの構築等を進めるべく、交通体系の充実が必要となっている。

オ 都市の低炭素化への対応

環境にやさしい交通体系の実現や低炭素な交通機関の利用促進等を進め、二酸化炭素排出量の削減に寄与する交通体系の充実が必要となっている。

カ 防災・減災への対応

迫りくる災害への事前の備えとして、交通体系の整備を進め、都市交通機能を多重化し(リダンダンシーの確保)、強靱化を進めていくことが必要となっている。

(1) 社会経済 【20~22ページ】	(2) 交通環境 【34~36ページ】							<交通計画改定の必要性>
	7-1 市民ニーズ 対応 (混雑・ 歩行環境)	8-1 混雑 改善	8-2 自動車 がなくても 生活が 可能な まちづくり	8-3 産業 立地の 促進	9-1 公共 交通の 維持・ 確保	9-2 超高齢 社会対応・ 生活交通 確保	10-1 拠点性向上・ 都市の集約 化・連絡ネット ワーク	
1-1 人口減少下での 将来都市像実現	●	●			●	○	●	→ 1 人口減少への対応
1-2 高齢化対応 (安全・快適)	●				○	●	○	→ 2 超高齢社会への対応
2-1 産業振興	○	○		●			○	→ 3 産業活性化への対応
2-2 産業立地ポテンシャル	○	○		●			○	→ 3 産業活性化への対応
3-1 観光資源連携		○					○	→ 4 観光振興への対応
4-1 自動車依存緩和	○	○	●		○		○	→ 5 都市の低炭素化への対応
5-1 防災連携基盤強化		○					○	→ 6 防災・減災への対応
6-1 住工混在回避	○	○		○			○	→ 6 防災・減災への対応

(●：特に関係性が高い項目、○：関係性があると考えられる項目)

図 交通を取り巻く課題 (交通計画改定の必要性)

(5) 交通計画の基本目標・基本方針

ア 基本目標

「安全・安心・快適」、「個性・活力・交流・連携」、「環境」の3つを交通体系の基本目標を設定する。

イ 基本方針

基本目標を達成するためには、個々の交通体系の整備のみでは対応が困難であり、次の視点での総合的な取組が求められる。

(ア) 交通手段の適正化

鉄道・バス・自動車・自動二輪・自転車・徒歩の各交通手段の分担のあり方を検討

(イ) 交通計画と土地利用計画の優位性

土地利用計画を単に交通計画の前提とするのではなく、都市交通の観点から望ましい将来像の提案

(ウ) ハード施策とソフト施策の連携

道路整備をはじめとしたハード施策だけでなく、既存ストックを有効活用し、交通需要管理・利用促進等のソフト施策と連携することの検討

(エ) 広域交通、地域交通及び地区交通の役割の明確化

首都圏・神奈川県における本市の交通体系の役割、及び市民生活の質の向上のための交通体系の役割を検討

(オ) 時間軸を意識した取組み

まちづくりを実現するための長期的な視点、及びその実現の過程において現況課題にも対応しつつ取り組むべき短期的視点での検討

以上の観点から交通体系の形成を総合的に取り組むこととし、都市マスタープランに示された「交通体系形成の方針」の考え方を踏まえつつ、本計画における基本方針について、次のとおり5つの方針を設定する。

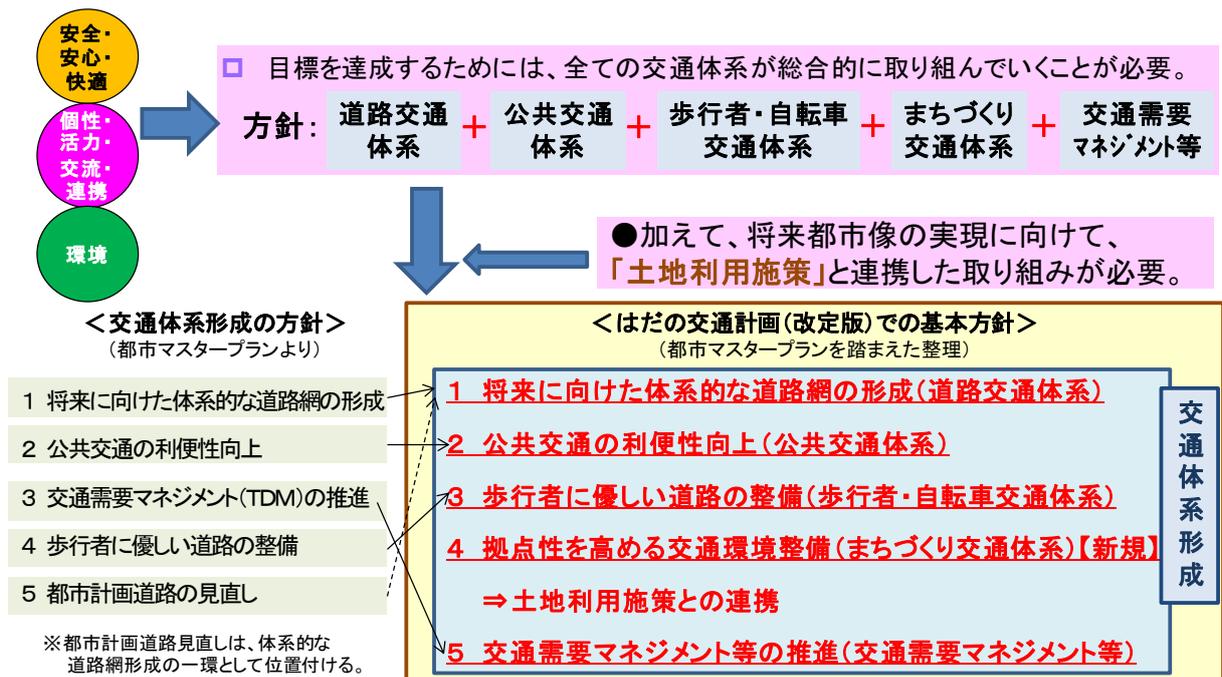


図 基本方針（交通体系形成の考え方）

(6) 交通施策の検討

■ 道路交通体系施策

- **国道 246 号等の慢性的な混雑・渋滞の緩和に向けた新たな道路整備**
 - ・ 広域交流を促進する道路ネットワークの整備（厚木秦野道路の一部や未着手幹線街路）
- **高速道路と連携した、道路整備事業の推進**
 - ・ スマートインターチェンジの整備及びアクセス路線の整備（新たな構想路線、曾屋西大竹線(仮称)等）による東西交通流動の改善
- **市内の骨格を形成する効率的・効果的な道路整備事業の推進**
 - ・ 市民生活、産業振興、観光流動促進、防災対応等に向けた、市内の骨格を形成する道路網整備
 - ・ 局所的な混雑緩和に向けた交差点改良・ボトルネック対策やソフト施策の導入
 - ・ 都市計画道路の継続的な見直しと未着手路線・区間の優先度の設定・早期整備
 - ・ 道路網整備計画の策定等
- **災害時における安全・安心な道路環境の整備**
 - ・ 橋りょうの安全性向上のため、落橋防止対策等の整備
 - ・ 大規模災害に伴う緊急輸送路確保のための無電柱化
 - ・ 被災時における広域避難場所への案内看板設置

■ 公共交通体系施策

- **公共交通ネットワークの維持・確保**
 - ・ 公共交通体系の再構築によるネットワーク形成の維持
- **公共交通空白・不便地域の改善**
 - ・ 公共交通空白・不便地域の緩和に向け、地域の実情に応じた新たな交通手段の維持・確保
- **利用促進に向けた取り組み検討・実施**
 - ・ 既存路線バスの利用環境の改善
 - ・ 高速バスとの連携強化

■ 歩行者・自転車交通体系施策

- **安全・安心・快適な歩行空間の整備**
 - ・ 快適な歩行空間の確保に向けた歩道の設置
 - ・ イメージ歩道の整備
- **駅周辺を始めとした地域でのバリアフリーの推進**
 - ・ バリアフリー基本構想改定
- **自転車利用環境の充実**
 - ・ サイクルシティの検討

■ まちづくり交通体系施策

- **産業立地のポテンシャルを活かし基盤整備の促進（土地利用の転換）**
 - ・ 産業系土地利用の整備と企業の誘致・立地を促進するスマートインターチェンジ整備（新たな交通結節点・拠点等の整備）
- **拠点性の向上と活性化**
 - ・ 計画的な自転車駐車場整備と既存ストックの有効活用（秦野駅北口広場の再整備）
 - ・ 駅周辺における歩いて暮らせるまちづくりの推進（秦野駅北口周辺地区の整備等）

■ 交通需要マネジメント

- **交通スリム化事業の継続実施**
 - ・ ノーマイカー・エコ通勤デー事業の継続
- **モビリティ・マネジメントの継続的実施**
 - ・ 小学生高学年を対象とした交通スリム化教育の継続的実施
- **低公害車の普及促進**
 - ・ 環境にやさしい低公害車の普及促進等

1-2 交通需要予測の実施

将来における交通課題の抽出とその対応方策としての施策を評価するために、交通需要予測を実施した。基本的には、過年度と同様の予測手法を採用し、前提となる交通需要を「秦野市人口ビジョン」に基づく平成42年時点での将来推計人口に基づく交通量を算定の上、シミュレーションを実施することとした。

■ 推計ケースの設定

交通需要予測システムにより、主に道路交通施策の展開による、自動車道路区間別交通量について下表に示すケースごとに配分シミュレーションを実施し、予測した。

表 交通需要予測推計ケース

ケース番号	配分ケース名称	使用ネットワーク	使用OD
①	H42すう勢	すう勢NW	H42すう勢(改)
②	H42交通計画	交通計画NW	H42交通計画(改)
③	H42全道路網整備パターン(MAXケース)	全道路網NW	H42交通計画(改)
④	H32交通計画	交通計画NW	H32交通計画(改)
⑤	H37交通計画	交通計画NW	H37交通計画(改)
⑥	(仮)曾屋西大竹線整備ケース	すう勢+当該路線のみ	H42すう勢(改)
⑦	(仮)秦野スマートICアクセス道路整備ケース	すう勢+当該路線のみ	H42すう勢(改)
⑧	厚木秦野道路全線整備(秦野中井IC~秦野ICを含む)	すう勢+当該路線のみ	H42すう勢(改)
⑨	土地利用変更A	交通計画NW	H42特殊A
⑩	土地利用変更B	交通計画NW	H42特殊B
⑪	土地利用変更C	交通計画NW	H42特殊C

※1：使用ODにおける(改)と示されたOD表は、1で整理したとおり将来人口予測結果の変更に伴い、将来人口の相違による影響を確認するために、新たに自動車OD表を変更したものを示す。

※2：⑨~⑪ケースについては、(仮称)秦野サービスエリアスマートインターチェンジ周辺土地利用構想で定められた、産業立地促進ゾーン(15ha)への立地状況等を感度分析的にシミュレーションを行うものである。

■ 将来交通需要の予測

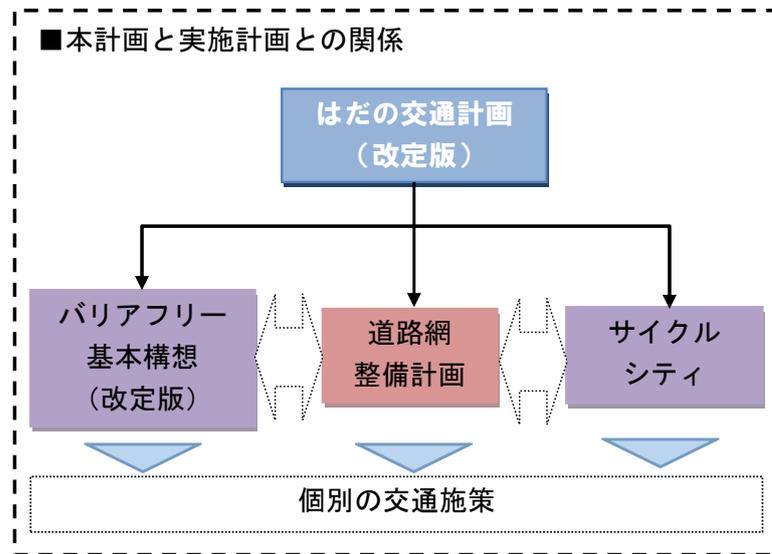
将来の道路網における交通量推計の前提条件については、本調査と関連性の高い「(仮称)秦野SAスマートIC」の検討結果との整合を図る観点から、「平成26年度秦野SA(仮称)スマートIC交通需要予測業務委託」と同様の方針にて実施することとし、各ケース別の道路交通需要を予測した。

1-3 望ましい交通施策の検討と評価

各施策の展開状況による交通体系としての総合的な取組の必要性について検証した。

各実施計画の策定に当たっては、本計画に位置付けた将来都市交通像の実現や、基本目標、基本方針と整合を図るものとするほか、各交通体系の形成に向けた個別の交通施策の検討に至った背景、課題等を踏まえながら、交通施策の展開方針、スケジュール、指標（目標値）について検討する。

また、着手済や事業中の事業、交通施策については、引き続き、本計画の方針に基づき継続して取り組む。



2-3 交通計画の実現に向けて

(1) マネジメントサイクルの構築

本計画は、おおむね15年後を目標年次に設定し、本市の将来都市像の実現に向けて必要となる交通施策について取りまとめるとともに、現況の交通課題に対応していくために、おおむね5年後の短期的に取り組むべき施策及びおおむね10年後の中期にわたり取り組むべき施策について明らかにした。そこで、本計画を推進していくに当たっては次の事項について留意していくことが必要と考えられる。

ア 国や県の動向を踏まえた施策の推進と見直し

イ 長期交通計画を実現するための短期的な事業計画の立案と着実な推進

ウ 効率的・効果的なものとしていくための適時適切な計画の見直し

エ マネジメントサイクルの構築

ア) 本計画に位置付けた基本目標や基本方針と整合を図りながら、道路網整備計画の策定、バリアフリー基本構想の改定及びサイクルシティの検討を行う。

イ) 交通計画の改定は、おおむね5年後を基本とし、当面、短期終了時点における施策の実施状況、施策実施による効果と課題について検証のうえ、必要に応じて施策の実施方針を見直す。

ウ) 交通計画の改定に際しては、交通計画に定めた評価指標の達成状況を評価し、その評価結果を公表するとともに、さらに社会経済情勢の変化を反映しながら検討する。

- エ) 交通計画の改定については、国や県、本市の上位計画、関連計画と整合し、またそれらを反映する。
- オ) 短期、中期の各段階については、施策事業の実施状況を毎年度確認する。
- カ) 施策を着実に進めていくために、特に、長期にかけて事業を推進する施策等については、国や県への働きかけを行うとともに、市の上位計画である総合計画や都市マスタープランへの反映、さらには、重点的に取り組むべき施策については、その実施計画を策定していく。また、施策展開に必要となる予算について、着実に確保していく。
- キ) 以上の評価・検証、計画の見直し等については、現在の庁内検討会の体制を維持し、引き続き進行管理を行う。

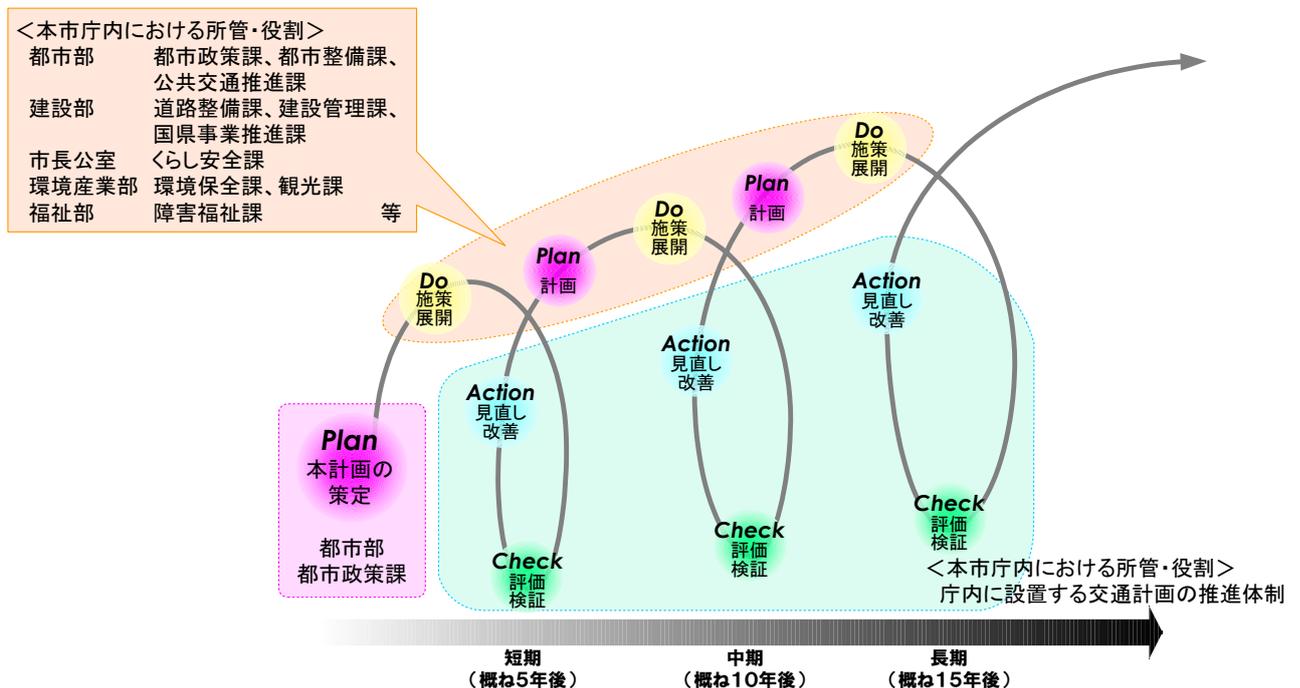


図 PDCAサイクルに基づく施策展開方針

(2) 交通計画の推進体制と役割

着実な施策の推進を図りつつ、今後の短期・中期各段階での計画内容の見直し等を実施していくために、庁内に交通計画の推進体制を確立させる。

短期的な施策である道路網整備計画の策定、バリアフリー基本構想の改定及びサイクルシティの検討等における施策、目標、評価指標等については、本計画との整合を図る。

また、本計画に位置付けた交通施策の推進に当たっては、ハードとソフトの両面からの事業化を図るとともに、財政的な裏付けや各種新規事業等の検討を進めるなどが求められる。さらに、国や県のほか、交通事業者、地元企業や居住者等との連携を図りながら、本計画の推進を図っていく。

第3章 パブリックコメントの実施支援と「はだの交通計画（案）」の策定

3-1 パブリックコメントの実施支援

「はだの交通計画改定素案」に対するパブリックコメントについて、平成27年12月1日（火）から平成28年1月8日（金）まで意見募集を実施したところ、次の通り意見提出があった。

これらの意見について市の考え方をとりまとめ、計画への反映等について検討した。

なお、意見募集概要及び実施結果の概要は下記の通りである。

- 募集期間 平成27年12月1日（火）から平成28年1月8日（金）まで
- 募集の周知 広報はだの12月1日号、本市ホームページ
- 配付（閲覧）場所 市役所都市政策課、行政情報閲覧コーナー、各公民館、図書館、秦野駅・渋沢駅連絡所
- 募集方法 郵送、持参、メール等
- 意見等提出状況 提出人数4人 意見の件数20件

表 意見の内訳

大項目 (章)	中項目 (節)	A 反映	B 表現済 み	C 事業へ の参考	D 反映で きない 意見・ 要望等	E その他 意見・ 要望等	合計
1. 交通を取り巻く 現況と変化	(1) 社会情勢の現況と変化	0	0	0	0	1	1
	(2) 交通環境の現況と変化	2	0	0	0	2	4
	(3) 交通を取り巻く課題	0	0	0	0	1	1
2. 交通計画の目標 と施策	(1) 将来交通需要の見通し	0	1	0	0	0	1
	(2) 交通体系形成方針	0	6	2	0	3	11
	(3) 施策展開方針と期待される効果・目標	0	0	0	0	1	1
3. 交通計画改定素		0	0	0	0	1	1
合 計		2	7	2	0	9	20

第4章 「はだの交通計画（改定版）」の策定

以上の検討結果に基づき、「はだの交通計画（改定版）」を策定し、また、あわせて市民公表向けの概要版リーフレットを作成した。